

序

生命科学研究の現場において、データベースやウェブツールはインフラとして欠かせないものとなってきている。しかし一方で、現在インターネット上には多数のデータベースやウェブツールが公開されており、そのなかから自分の研究に役立つものを探し出すことは必ずしも容易でなくなってきた。研究のさまざまな場面において、どのようなツールが活用できるのか。本増刊号は、読者がそれを知るための手がかりとなるよう企画したものである。第I部では、国内の主要な生命科学データベースやプロジェクトの動向および取り組みを紹介した。第II部では、各分野を支えるデータベースやウェブツールのなかから、誰でも無料で使えるもの、ブラウザ上ですぐに見えるものを中心に100余りをとりあげ、その概要と基本的な使い方とをわかりやすく紹介した。とくに、インフォマティクスを専門としない実験系の研究者が、記事を読んで「これは便利、ぜひ活用したい」と思えるような、利用者の視点に立った解説をめざした。

本増刊号のなかから読者の研究に役立つようなツールを見つけたら、まずはそこで紹介されているとおりに試してみることをおすすめしたい。ツールのさらに詳しい活用法は、検索エンジンを駆使すれば調べることができるし、読者自身で試行錯誤しながら身につけることもできるだろう。本増刊号がその足がかりとなれば幸いである。

最後に、本増刊号に執筆を賜った先生方、また企画・編集にあたりお世話になった羊土社『実験医学』編集部の皆様に厚く御礼申し上げます。さらに、編者の力不足により本増刊号のなかで紹介することのできなかったデータベースやウェブツールを含め、生命科学を支える良質なデータベースやウェブツールを継続的に開発および維持されている皆様に、心から敬意と感謝の意を表したい。そのようなツールを研究に活用された読者の皆様は、できればツールの開発者にコメントや要望を伝え、論文執筆時にはそのツールを引用していただければ幸いである。引用できる文献がある場合は、各ツールの文献の欄に掲載している。利用者からのフィードバックは、開発者にとり機能追加や改良を検討するきっかけとなるだけでなく、現場で活用されていることを実感できる貴重な機会でもあるはずだ。

2014年10月

内藤雄樹